

所員の研究、試験および検査に関する発表を主とする「衛研例会」は、昭和26年から原則として毎月第2火曜日、第一会議室において開催されているが、平成10年度に行った演題は次のとおりである。

第410回（平成10年4月7日）

1. 農産物中の残留農薬分析に対する超臨界流体抽出の適用—茶試料について—

食 品 部 根 本 了

2. 培養ラットシュワン細胞におけるアルドース還元酵素遺伝子発現に対する高浸透圧ストレスの影響

大阪支所薬品試験部 前川京子
谷本剛

第411回（平成10年5月12日）

1. HIV プロテアーゼ阻害剤の合成鍵中間体アミノエポキシドの合成

有 機 化 学 部 栗 原 正 明

2. ラット初代培養海馬神経細胞におけるグルタミン酸による細胞内カルシウムイオンとpH変化

生 物 薬 品 部 山 本 雅 幸
川 西 徹

3. 超臨界流体抽出（SFE）-HPLCによる穀類中残留農薬の一斉分析法

大阪支所食品試験部 吉井公彦

第412回（平成10年6月9日）

1. ポリマー水溶液の凍結による相分離

薬 品 部 伊 豆 津 健 一

2. 漢方方剤七物降下湯の脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）に対する効果

生 薬 部 樋 口 行 人

3. 硫酸化チロシン含有ペプチドのFmoc型固相合成法の開発

療 品 部 矢 上 健

4. 新生仔マウス二段階発癌モデルにおける ODMH 及び HQ の発癌標的性

病 理 部 田 村 啓
渋谷淳

5. ラット乳腺二段階発癌モデルにおける食物繊維成分のプラントゴオバタ種皮未の発癌修飾作用

病 理 部 高 木 久 宣
三 森 国 敏

第413回（平成10年7月14日）

1. 生物の微生物汚染に対するγ線照射に関する研究

生 薬 部 鎌 倉 浩 之

2. 大豆食で起こるラット甲状腺腫瘍の発現機序に関する検討

病 理 部 池 田 尚 子
西 川 秋 佳

第414回（平成10年10月13日）

1. ATP 受容体チャネルの機能とその構造との相関

薬 理 部 中 澤 憲 一

2. ヒト型反応を基礎とした毒性試験：ヒト由来細胞を用いた変異原性試験

変 異 遺 伝 部 本 間 正 充

第415回（平成10年12月8日）

1. アレルギーと環境化学物質

機 能 生 化 学 部 手 島 玲 子

2. ラテックスアレルギー概論—現状と対策—

療 品 部 中 村 晃 忠

3. ラテックスアレルギーと植物の生体防御蛋白質—交差反応性に基づくアレルゲン—

療 品 部 矢 上 健

4. クレソン中の in vitro 抗アレルギー活性成分について

食 品 部 合 田 幸 広

5. リンゴ未熟果由来プロアントシアニジンの抗アレルギー活性について

食 品 部 穂 山 浩

第416回（平成11年2月9日）

1. ポリウレタンの発癌機構

療 品 部 土 屋 利 江

2. マウス肝二段階発がんモデルを用いたペンタクロロフェノール（PCP）のイニシエーションおよびプロモーション作用の検討

毒 性 部 梅 村 隆 志

3. 遺伝子改変動物を用いた発がん性評価：p53 ノックアウトマウスを用いた発がん性の解析

病 理 部 小 野 寺 博 志
三 森 国 敏

4. 麩酸のラット甲状腺発がんメカニズム—ホルモンを介した発がん性—

病 理 部 田 村 啓
三 森 国 敏

5. トランスジェニックマウスを用いた各種制がん剤の変異原生に関する検討

変 異 遺 伝 部 鈴 木 孝 昌

支 所 例 会

第 159 回 (平成 10 年 6 月 23 日)

1. ポストカラム反応蛍光検出 HPLC を用いる農産物中 N-メチルカルバメート系農薬とそれらの代謝物の分析法
食品試験部 津村 ゆかり
2. ラットにおけるトリブチルスズの着床阻害作用(脱落膜反応に与える影響)
生物試験部 原 園 景
3. 可塑剤 butyl benzy phthalate の妊娠及び偽妊娠ラットにおける生殖障害
生物試験部 江 馬 眞
4. ハムスターテストによるラット受胎能検査の検討
生物試験部 川 島 邦 夫

第 160 回 (平成 10 年 9 月 22 日)

1. ラットに由来する多分化能を保持する中枢神経系幹細胞の培養化
生物試験部 天 野 博 夫
2. 私の研究生活 35 年を振り返る
支 所 長 野 口 衛

第 161 回 (平成 10 年 10 月 27 日)

1. ヒト・アルドース還元酵素遺伝子導入マウスを用いた糖尿病合併症発症機序の解明並びに合併症治療薬の有効性・安全性評価への応用に関する研究 -その 1-
薬品試験部 前 川 京 子
2. 逆相系光学異性体分離カラムによるロートエキス中トロパンアルカロイド光学分割
薬品試験部 四方田 千佳子
田 頭 洋 子
3. 超臨界流体抽出(SFE)-GC(GC/MS)及び HPLC による穀類中残留農薬の一斉分析法
食品試験部 吉 井 公 彦
4. ICP 発光分析による食用色素中のヒ素の測定とその実態調査
食品試験部 石 光 進

5. ヒトメラノーマ細胞に対する IL-1 の増殖抑制作用の解析 -IL-1 の細胞内情報伝達機構-
生物試験部 中 川 ゆかり

第 162 回 (平成 10 年 12 月 22 日)

1. ヒアルロン酸水溶液の超音波分解における溶質濃度および共存イオン種の影響
薬品試験部 宮 崎 玉 樹
2. 東南アジア諸国における医薬品事情 -不正医薬品を中心に-
薬品試験部 谷 本 剛
3. 健康食品ギムネマ酸含量の実態調査並びにギムネマ酸の糞中ステロイド排泄増加作用について
食品試験部 中 村 優 美 子
4. 内分泌かく乱物質の食品・食器等から暴露に関する調査研究 -特にフタル酸エステル類の暴露量調査方法の設定について-
食品試験部 外 海 泰 秀
5. DNA 三重鎖形成による転写因子活性の制御 -アンチジーン法の確立に向けて-
生物試験部 田 中 寿 一

第 163 回 (平成 11 年 1 月 26 日)

1. アポリポ蛋白質 E による脂質粒子の認識機構
薬品試験部 齋 藤 博 幸
2. 日局「浸透圧測定法」の改正について
薬品試験部 岡 田 敏 史
3. 食用黄色 5 号 (サンセットイエロー FCF) の不随色素について
食品試験部 辻 澄 子
4. ヒトメラノーマ細胞に対するインターロイキン 1 の増殖抑制作用の解析 (第 3 報) -IL-1 によって誘導される CDK インヒビター p21Cipl の役割について-
生物試験部 村 井 敏 美
前 田 秀 子

 特別講演会

平成 10 年 6 月 2 日

Isolation of Human Breast Stem Cells and Tyrosine Kinase
Activation are related to Breast Carcinogenesis by Toning
Radiation and Oncogenes

Michigan State University Dr.Kang Kyung-Sun,D.V.M.

平成 10 年 12 月 7 日

Endocrine Disrupting Chemicals molecular mechanism of
its low dose effects

NCTR Dr.Daniel M.Sheehan

平成 10 年 6 月 10 日

The Role of Chemistry in HACCP, Analysis of Food
Additives

FDA Dr.Charles R.Warner

平成 11 年 1 月 19 日

Effect of TCDD on Prostate Cytochrome CYP1A1 Gene
Activation and it's potential on sequences

KFDA Dr.Insu.P.Lee

平成 10 年 7 月 16 日

Endocrine Disrupting Issue in Food Safety

Michigan State University Dr.Kang Kyung-Sun,D.V.M.

平成 11 年 1 月 20 日

Identification of Transgene Instability and Loss of
Tumorigenic Response in The Tg.AC Mouse
Carcinogenicity Model

FDA Dr.Frank Sistare

平成 10 年 9 月 11 日

造血幹細胞の ex vivo 増幅臨床応用の可能性とその問
題点

東京大学医科学研究所教授 中畑 龍俊

平成 11 年 1 月 28 日

制がん物質の細胞標的化へのアプローチ

通産省生命工学工業技術研究所 奥野 洋明

平成 10 年 10 月 19 日

アレルギーとプロスタグランジン、ヒスタミン

京都大学大学院教授 市川 厚

平成 11 年 2 月 18 日

The Role of Inter -and Intra- Cellular Communication in
Oxidative-Induced Epigenetic Pathways

Michigan State University Dr.Brad L.Upham

平成 10 年 11 月 2 日

Metabolic Polymorphisms, Drug Metabolism, and Cancer
Susceptibility

NCTR Dr.Fred F.Kadlubar

平成 11 年 2 月 23 日

CD44 分子の癌浸潤・転移機構における役割

千葉大学医学部教授 張ヶ谷健一

平成 10 年 11 月 6 日

c-kit 遺伝子の分子病理学：マスト細胞欠損マウスから
ヒト消化管間質腫瘍まで

大阪大学医学部教授 北村 幸彦

平成 11 年 3 月 5 日

神経筋シナプス形成の分子機構の解析

愛媛大学医学部教授 重本 和宏

平成 10 年 11 月 9 日

アデノウイルスベクターと発現制御技術、現状と将来

東京大学医科学研究所教授 斎藤 泉

 支所特別講演会

平成 10 年 11 月 26 日

「内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）in vitro スクリ
ーニング試験法」

大阪大学大学院薬学研究科 西原 力